

0033 2000

第六號

保存期限		決裁指定		決行指定	
受領番		件名		大臣	
武第一七三七号		賀陽公恒憲王殿海軍航空隊衛見學ノ件		局長	
起元廳(課)名		參與官		課長	
賀陽實附武官		書記官		主務課員	
筆記者		審案			
大房官臣大		課局務主			
了結	領受	出提	領受	號番	
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和十四年 月 日	昭和 年 月 日		
(裁決)行決後		帶連			
局長		局長			
長課		長課			

政務次官
同付
決裁前連帶
課名

皇族

決行(決裁)後
同覽課名



0032 0033

第六號

房官臣大		課局務主		件名	番受		
了結	領受	出提	領受			號領	
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和十四年 月 日	昭和 年 月 日	賀陽宮恒憲王殿海軍航空隊衛見學人件	武第一七三七号		
(裁決)行決 覽回後		帶連					
長局		長局				局主務	次官
長課		長課				課主務	高級副官
						主務課員	主務副官 官房御用掛
					參與官		
					書記官		
					審案 筆記者		

政務次官回付
決裁前後連帶
參與官同付

皇族

決行(決裁)後
同覽課名



副官、海軍省副官、照會

陸軍省

加陽、恒憲王殿下、左記、通御見學

被遊度思召、被爲在、付可然御取計相成

追子細部、同シテハ直接御打合セ可相成

口付申添フ

左記

陸軍第三六五六號 昭和四年六月十日

一見學場所

追濱海軍航空隊

一、御見學の日時

六月十三日午後

右同答アリタニ上

月十日附照會相成候旨題、件
別紙字ハ同答有之候條、事知
相成度

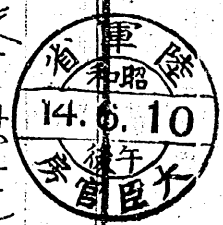
陸普第三六八六號

昭和四年六月十三日

三六

陸軍

一七三



陸軍

賀陽宮恒憲王殿下海軍航空隊御見學件照會

昭和十四年六月十日

皇族附武官
恒憲王附屬
太田 壽男

陸軍省高級副官 國分新七郎殿

賀陽宮恒憲王殿下ニ左記通り御見學被遊度思召被為在ニ付
可然御取計ニ相成度依命照會ス

追而細部ニ直接協議可致ニ付申添フ
左記

一 御見學場所

追浜海軍航空隊

二 御見學日時

六月十三日午後



4800

第一七三三
子又

官房第三〇四六號ノ二

昭和十四年六月十二日



海軍省副官 一宮 義

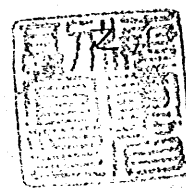
陸軍省副官 國分 新七郎 殿

賀陽宮恒憲王殿下横須賀海軍航空隊及海軍航空技術

廠御見學ノ件回答

陸普第三六三一號及同第三六五六號照會首題ノ件來意ノ通取計置候
追テ御着發時刻等ノ詳細ニ付テハ直接御見學先ト連絡セラルル様取計
ハレ度

(終)



(加藤 納)

佐

海軍

1737

(本審案用紙ハ三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス)

1230

アジア歴史資料センター

副友より海軍省副友、照会

陸軍省

賀陽宮恒憲王殿下に左記の通御見事
被後度思召に被為在二付可也御取計
相成度

追う細部、因して直接拂御打合せのあり
付中添う

左記

一、御多事場所

横須賀海軍技術廠（四海軍艦雲廠）

二、御見事日時

六月十四日

陸普第三六三二號 昭和六年六月九日



左記をよりる上

0040

加陽惠訪贈以友一四

陸雲兮

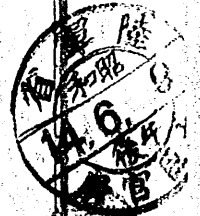
~~六月九日
高ノ通ヲ海軍省
別有之回覧者
其ノ条~~

陸軍

(日本標準規格 B-6)

陸軍省

一七二一號



陸軍

賀陽宮恒憲王殿下海軍特種部隊御見學件照會

昭和十四年六月九日

皇族附武官
恒憲王附屬

太田 壽男

陸軍省高級副官 國分新七郎殿

賀陽宮恒憲王殿下ニ左記通御見學被遊度思召ニ被爲在ニ
付可然御取計ニ相成度依命照會ス

追而細部ハ直接協議可致ニ付申添フ

左記

一 御見學場所

横須賀海軍技術廠（旧海軍航空廠）

二 御見學日時

六月十四日